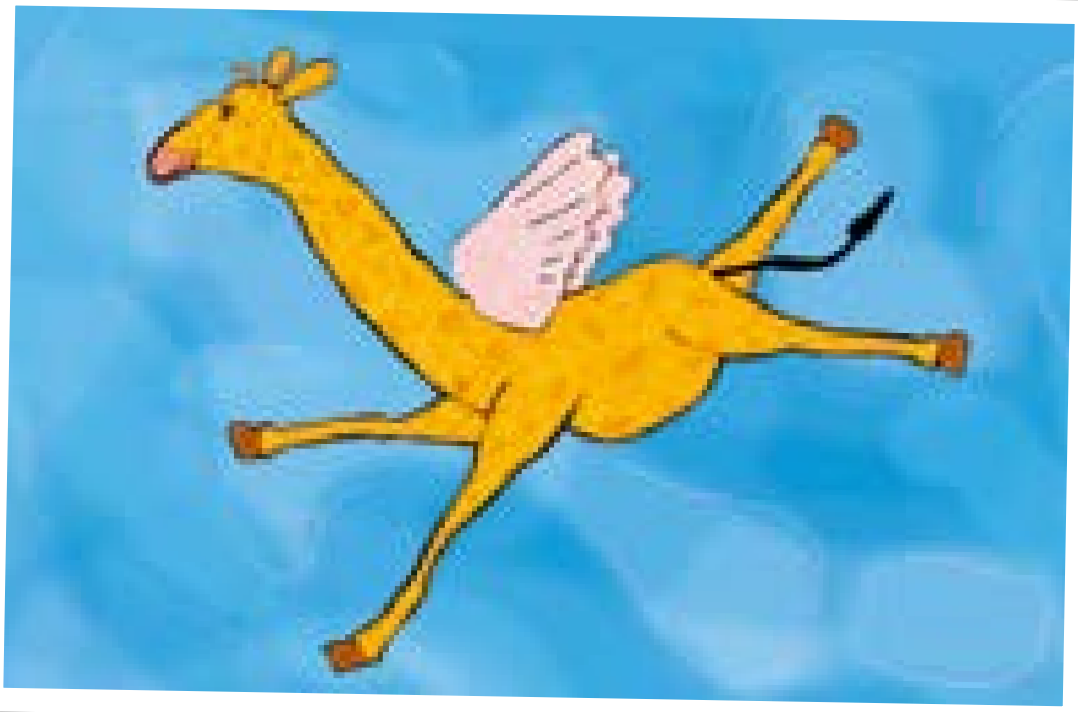
てつがく絵カードの使いかた



小さな子どもたちとてつがくするための

テーマ別絵カード

子どもたちと てつがくしよう

哲学はみんなのもの

子どもたちと哲学をしてみると、とても驚かされるものです。子どもたちの口をついて出てくる理由や説明は、感動的で独創性に富み、クリエイティブで驚くほど的を得たものであることがよくあるのです。哲学というと何か難しそうに聞こえ、子どもには向かないと考える人が多いようですが、そんなことはありません。哲学は、誰にでも、そう、たった4歳の子どもにだってできます！ それに、人の生について知りたいという欲求は、人間にとって生まれながらの欲求であるとすら言えます。子どもたちが何百もの「なぜ」という問いかけをするのは、正にそのためでもあるのです。

考える筋肉

哲学の魅力は、自分の頭以外には他に何もいらないことです。知識もいりません。知識は、むしろ少ない方が良いと言えるくらいで、その方が物事のしくみについて自分の力で考えられ、本当に「考える筋肉」を鍛えることができるからです。

哲学することの利点

哲学は、（円座で行うサークル）対話の中身を充実させ、子どもたちの頭を刺激する素晴らしい方法です。子どもたちの語彙（ごい）は増え、会話力が伸び、お互いによく耳を傾けあったり問いかけあったりできるようになり、自分が考えていることを言葉にしたり、自分なりのアイデアを表現したり、自分の意見をまとめて伝えられるようになります。また、普段とは違う角度からお互いを知り、より深く理解できるようになります。そしてとても大切なのは、

哲学には間違った答えがないので、子どもたちの自信が育つことです。

子どもたちの哲学をどうファシリテートする？

一番大切なルールは、ただ問いかけることに終始し、決して答えを与えないこと。子どもたちは自分で考えなければなりません。大人が答えを与えてしまうと、子どもたちは考えるのを止めてしまいます。学校や家で大人がいつも答えを出すのに慣れてしまうと、当然そうなってしまうのです。

また、もう1つ大切なのは、大人であるあなたが子どもたちの発言に対して興味があるという態度を示すことです。それは言い換えれば、あなた自身も実は人生がどのような仕組みになっているのかは、子どもたちと同様、正確には知らないということ、また、すべてのことについて答えをすぐに出せるわけではないことを自覚することにほかなりません。

それに、子どもたちの言葉がきっかけとなって、大人自身がものを考え始めることさえあるのです。子どもたちの言葉は真摯（しんし）に受け止めましょう。

なぜ、てつがく絵カード？

幼児を相手に話をする時には、当然、小学生と話す時とは違った口調になるでしょう。でも、幼児とでも、いろいろな問いについてとても深く考えることができます。そういう時は、子どもたちの周りの世界の何か具体的なテーマや人があった方が対話は始めやすいものです。この『てつがく絵カード』はそのために作られたものです。

誰のため？

『てつがく絵カード』は、学校だけではなく家庭でも、子どもたちと、いつもとはちょっと違った、何か深い会話をしてみたいという時に役立つことでしょう。

てつがく絵カードの使いかた

内容

50枚のカード　表側:50の絵
裏側:48の探究的な問い、
＋カード、－カード（各1）

『てつがく絵カード』の使いかた

この『てつがく絵カード』は、小さな子どもたちと48の問いについて哲学するためのカードです。48の問いは、絵が描かれたカードの裏側にあります。1つ1つの問いには、そのテーマに関して、子どもたちの考えをさらに深めるのに役立ついくつかの問いが書かれています。これらは、まさしく意外な答えを引き出すために、独特の観点からテーマを見直すための問いかけです。

各カードの上段に書かれた問いの文章の中で、太字になっている言葉がテーマです。問いの下には、その問いを深めていく時に使う絵が描かれたカードがリストアップされています。それぞれの絵には番号が振られているので、子どもたちと哲学を始める前にリストにある絵のカードを抜き出して用意しておきましょう。また、リストには、そのテーマごとに各絵を子どもたちに示す時の言葉も書かれています。例えば、1番の絵は、ある場合には、

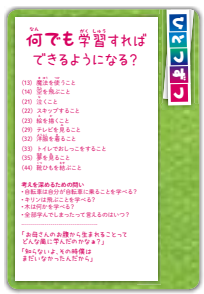
「お父さん」というだけですが、別の時には「嬉しい時」というような言葉で示すために使われます。48の問いには、それぞれ、子どもたちがこんな答えを出すかもしれないという、子どもの言葉の引用も書かれています。

3つのやりかた

1. ひとつずつ

ほとんどの絵は、思考を刺激するためのものです。例えば、「何でも学習すればできるようになる?」という問いでは、順々に1枚ずつ絵を見せて子どもたちの答えを引き出します。

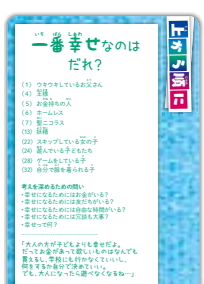
例えば、泣いている子どもの絵を見せて「泣くのは、学んだらできるようになる?」と聞くというように。一旦子どもに見せたカードはテーブルの上に並べておき、子どもたちが後でカードを見ても何か新しい考えを思いつけるようにしておきます。



2. 上から順に

48の問いの中には、子どもたちが絵を上（一番そうだと思うもの）から順番に並べていかなければならないものもあります。子どもに何枚かのカードを上（一番そうだと思うもの）から順番に並べてみるように言うのです。

例えば、「誰が一番幸せ?」という問いを取り上げてみましょう。この問いでは、お金持ちや、ホームレスや、遊んでいる子どもたちなどの絵を使います。子どもは、それらのカードを見ながら一番幸せだと思う人から一番幸せで

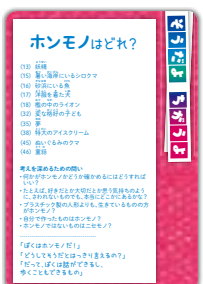


はないと思われる人まで、順番に並べます。そして、その子はなぜそういう順番にしたのか理由を説明します。次に、誰か他の子がそのカードの順番を変えることができます。もちろん、その子は、また変えた理由を説明します。

こうしていくうちに、幸せであるということについて、子どもたちから自然といろいろなアイデアや見方が引き出されてくるのです。

この問いでは、「幸せ」と思う方を『＋カード』とし、「幸せでない」と思う方を『－カード』として使うこともできます。このカードを両脇においておくと、子どもたちは2枚のカードの間に順番に並べることができます。

3. そうだよ、ちがうよ



またいくつかの問いでは、絵を2つのグループに分けることができます。例えば、「正しいのはどれ？」という問いでは、正しいことと正しくないことという2つのグループにカードを分けていきます。テーブルの上に『＋カード』と『－カード』を置いても良いですし、サークルになって座っている時に、椅子を2つ追加して用意し、＋の椅子と－の椅子にして、カードを2つの椅子に分けていくようにしても良いでしょう。

どの子かに1枚の絵カードを渡して、＋と－のカードのところか、2つの椅子に置くように言います。そして、そのたびに他の子どもたちに、そのカードを「反対の場所に置きたいと思う人はいませんか」と問いかけます。もちろん、その子は反対側に置く理由を言ってから、それを置き換えることができます。

てつがく絵カード

原　作　ファビアン・ファンデルハム
イラスト　シンディ・ファンスヘンデル
日本語版プロモート及び訳　リヒテルズ 直子 ©Naoko Richters

2017年12月5日　第1刷発行

編　集　岡田 承子
発行人　高橋 利直
発行所　株式会社ほんの木
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-12-13 第一内神田ビル2階
TEL 03-3291-3011 FAX 03-3291-3030
http://www.honnoki.jp　Email info@honnoki.co.jp
印　刷　近代美術株式会社

ISBN 978-4-7752-0105-3 Printed in Japan

製品につきましては、万全の注意を払っておりますが、万一不良品がございましたら恐れ入りますが小社までご連絡ください。本著作物の一部あるいは全部を利用（コピー等）するには、著作権法上の例外を除き著作権者の許諾が必要です。

専門家及び保護者向け（対象年齢4歳以上）

入っているもの てつがく絵カード50枚、説明書

子どもたちのための50の哲学的問い
てつがくおしゃべりカード

原　作　ファビアン・ファンデルハム
イラスト　シンディ・ファンスヘンデル
日本語版プロモート及び訳
リヒテルズ 直子

発　行　ほんの木
価　格　本体1800円（税別）

対象年齢 6歳以上

入っているもの てつがくおしゃべりカード50枚
説明カード6枚

てつがくカード ホームページ
http://www.honnoki.jp/tetsugakucards/

深い考えを引き出すために

哲学では、子どもたちが考えをもっと深めるために問いかけ続けていくことが大切です。子どもたちの答えに対して、さらに問いかけていくのです。

例えば、下記のような問いです。

- どうしてそうだとはっきりわかるの？
- ちがうこともある？
- いつもそうかな？
- どうしてそうなるの？
- 何か例を挙げられる？
- もしもそうでないとしたらどう？
- ほかのみんなもそう思う？
- どうしてそう思うの？
- どうしてそうなのかな？
- それには何かルールがあるの？
- これまでもいつもそうだったの？
- それが正しいという証拠が何かある？